1. はじめに

憧れや夢、理想、目標などを持つことは学習の動機に繋がるとされてきた。小さい時の感銘や感嘆がその後の人生に影響するという報告もある。ギフテッド教育においても、憧れや目標はその後の学習にとって重要な要因である。自己調整学習や共調整学習、社会的共有学習は、学校教育の成功に必要とされる。一方、変化に富み多様な社会へ適応するために、生涯学習(1)や、リスク対処、キャリア形成を促す心理的特性であるキャリアレジリエンス(CR)(2)が必要である。CRは、失敗から学ぶなど、学びと関係がある。大学生の生涯学習とCR全体は、有意に関係しているといわれる(3)。学校教育で成功するだけではなく、社会に適応し、生涯を通じて、主体的に学び続けるために考慮すべき要因を探究するため、憧れや目標を持つことの学びへの影響を調査する。本研究は基礎研究と位置づけ、大学時点での、生涯学習、憧れと目標、生涯学習、CRとの関係を明らかにすることを目的としている。

2. 研究方法

2.1 調査方法と調査対象者

2019年1月にMoodle上のアンケート機能を用いた質問紙調査を実施した。データ収集にあたり、研究の目的とデータの使用、参加の任意性を説明した。対象者は、国立大学工学部93人(男性74人、女性19人)であったが、欠損値のない67人(男性51人、女性16人)のデータを分析した。

2.2 質問紙

質問紙は、2尺度合わせて計50項目と、方向性、憧れ・目標に合う質問25項目と計75項目と、影響をうけた事柄についての自由記述を含んだ。生涯学習に関してはWielkiewicz Lifelong Scale(LLS)(4)を採用した。LLSは、5段階リッカート尺度で16項目から構成される。CR測定には、4段階リッカート形式の34項目から構成される児玉(5)の尺度を使用した(5)。問題解決力、ソーシャルスキル、不適性、未来志向、援助志向の5要因が含まれる。著者が利用した2項目は、「Q1幼いころからやりたいことの方向性にブレはない」「Q2こんな人になりたい、こんなことをしたい、こんな生活をしたい、という憧れや目標がある」であり、4件法で回答してもらった。自由記述では、「これまでの人生で、影響を強く受けたこと、こと、ことについて、記述してください。いつごろ、それは起こり(出会い)、その時に感じたことを書いてください。また、そのことを今、どのように感じているか書いてください。もし、影響を受けたお、こと、こと、こと、こと、こと、しない場合は、大切にしている言葉または好きな言葉について、説明してください。」と指示した。

3. 結果

尺度の信頼性は、生涯学習α=.95と高く、CRでは、未来志向(α=.55)以外は、.75〜.93と高めであった。

やりたいことの方向性と憧れ・目標への回答に関しては、表1の通りである。やりたいことの方向性を持続している学生は約半数であった(選択肢3と4の合計53.73%)。逆に、憧れや目標を持っている学生は61.20%であった。
方向性と憧れ・目標と、LLS全体とCRの5要因の相関については表2の通りである。憧れや目標を持っていることは、生涯学習およびCSの5要因のすべてに、やりたいことの方向性は、CSの未来志向以外の要因と正の相関があった。LLS全体、CR各要因を従属変数、質問2項目を独立変数とし重回帰分析を行った。この2項目で、LLS全体、CRの各要因を有意に説明しているという結果になった（LLS: R² = .40, CR1: R² = .55, CR2: R² = .68, CR3: R² = .58, CR4: R² = .65, CR5: R² = .48）。

自由記述を分析すると、未記入または特になしという回答の学生が17名いた。その他の50名は、影響のある事項または好きな言葉などを、自己の経験を踏まえて具体的に記述していた。例えば、「私は父が技術者ということもあり、いつも近くで機械などを見ていた父の姿を見たため、そのため、私も機械をいじるのに興味が出てきて工学部の進学を決めたきっかけの一つになっている。これから、新しい時代になってくるにつれて機械などがさらに発達すると思われるため、街づくりなどに役に立つような研究などをしていき少しでも貢献していきたいと考える。」

4. 考察とまとめ

やりたいことの方向性、憧れや目標を持つことと、生涯学習とCRには、正の相関が存在する結果となった。また、方向性と憧れ・目標をしっかりと持ってきていることで、生涯学習とCRが有意に高くなる可能性が示唆された。大学生の時点でのやりたいことの方向性、憧れ・目標をもつことは、社会に適応するための継続的な学びに対し肯定的な影響がある可能性が示唆された。今後は、学びの他の側面も考慮し、大学生だけでなく、幅広い年代の対象者において調査を行い、生涯にわたる学習に影響する要因を更に明らかにしていき、本研究の意義として、年代に合わせた学び、成長に合わせたフィードバック、支援をするための手法をデザインするための基礎情報を提供することが挙げられる。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表2 方向性と憧れ・目標と、LLS全体とCRの5要因の相関</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Q1幼少こころからやりたいことの方向性</td>
</tr>
<tr>
<td>Pearson r</td>
</tr>
<tr>
<td>p</td>
</tr>
<tr>
<td>Q2こんな人になりたい、こんなことをしたい、こんな生活をしたい、という憧れや目標がある</td>
</tr>
<tr>
<td>p</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：* < .05, ** < .01, N = 67.

参考文献


(2) 児玉真樹子: "大学生用キャリアレーション盡測尺度の開発, 学習開発学研究, Vol.10, pp.15-23. (2017)"

(3) 合田愛美, 山田政宏, 新日真紀, 半田純子, 長沼賢一, 上田勇人: "大学生における生涯学習とキャリアプレンジエンスの関係", 第44回教育システム情報学会全国大会, pp.53-54. (2019)


謝辞

本研究は科学研究費助成事業研究課題番号(17K18659, 20H01727)の助成を受けたものです。